

「北海道自然災害史研究ワーキンググループ(第3期)」

委員公募のお知らせ

日本応用地質学会北海道支部事務局

北海道応用地質研究会事務局

標記の委員会を立ち上げることになり、下記の要領で会員の皆様から委員の公募を行います。下記の設立に関する事項をお読み頂き、参加ご希望の方はお申し込みください。自然災害に関する史跡にご興味をお持ちの方、歴史にご興味をお持ちの方など、本ワーキングの活動へご参加をお願いします。奮ってご応募ください。

(設立趣意)

北海道は、地形・地質・気象等の自然的条件により、過去から多くの地震・火山・洪水等の自然災害に見舞われてきました。そして被害を受けるたびに、我々の祖先はその時の様子や教訓を後世に伝えるために、石碑やモニュメント等の自然災害伝承碑として被災場所に建立してきました。自然災害は同じ場所で繰り返し発生する傾向にあります。ついては、過去の災害を応用地質学的に分析し解釈することで、過去の災害への理解を深め、災害の実像を正しく理解することは、現世において同様の地形地質における防災に役立つことが期待されます。また、過去の災害から得た教訓を地域住民に広く分かりやすく伝えることも重要です。

本ワーキンググループは、これまでの令和5年度から令和6年度の第2期までの活動で文献調査から北海道内において132件の災害碑を抽出し、114件の災害碑を現地調査し、その成果を研究発表会、EPOCH及び技術講習会等で会員にお知らせしてきました。しかしながら、抽出した災害碑のうち約1割を未だ現地調査できていないほか、道内179市町村のうちの64市町村での調査に留まっています。そのため、気づかず埋もれている災害碑が未だ多数残されている可能性があります。その他、災害碑以外にも災害の痕跡を伝えるものとして伝統行事や民話もあります。

そこで、北海道支部及び北海道応用地質研究会はこれまでの北海道自然災害史研究ワーキンググループの活動を引き継ぐ第3期のワーキンググループを設立し、研究に取り組むことを企画しました。本ワーキンググループは、以下の調査・研究を行います。

1) 対象

北海道における以下の自然災害碑等を調査・研究の対象とする。

- 自然災害碑（石碑、モニュメント、銘板等）
- 口伝、伝説、伝承行事等

2) 災害形態

以下の災害形態を対象に調査・研究を行う。

- 地震
- 津波
- 洪水

- 高潮
- 土砂災害
- 火山
- その他（火災、強風等）

3) 具体的な活動内容

- 自然災害碑等の事例収集及び現地調査
- 自然災害碑等に関する情報の集積、分析及び公開
- 日本応用地質学会本部災害地質研究部会との連携
- 機関誌、シンポジウム、講習会等による会員への情報発信
- 防災教育としてのアウトリーチ活動
- その他必要な事項

つきましては、これら課題に関心のある方の委員会への参加を下記により募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしております。

記

委員会名：北海道自然災害史研究ワーキンググループ

委員長候補：倉橋稔幸(寒地土木研究所)

委員予定数：約 30 名

活動期間(予定)：令和 7 年度～令和 8 年度(2 年間)

CPD：活動時間に応じて申請の予定

申込み方法：以下の URL から所定事項をご記入ください。

<https://forms.gle/u7TaETsw9GADUhQv6>

問合先：寒地土木研究所 地質研究監

「北海道自然災害史研究ワーキンググループ」 担当 倉橋

e-mail; hokkaido.saigaishi.wg@gmail.com (○を@にしてください)

申し込み締切：令和 7 年 6 月 6 日(金)

以上